

# よりよい授業をめざして ～授業改善推進プラン～

Ⅰ 年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読は、元気に読もうとする児童は多いが、文字をまとまりとしてとらえることが難しい児童がいる。</li> <li>教科書の文やテストの問題文を読む能力に個人差がある。</li> <li>ひらがな、カタカナの定着、語彙数、文章を書く能力に個人差がある。</li> <li>促音、長音、拗音、拗長音の間違が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「音読カード」を用いて家庭での音読を習慣化し、文字を目で追って発音することを定着させる。授業中、個・ペア・クラス全員等の読み方を工夫し、努力や上達を認め意欲を高める。</li> <li>授業や宿題で、文字の書き取りや言葉探しの練習を取り入れる。書き方の手順、言語学習も段階的に指導し、表現に自信を付けさせる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>10の合成分解に時間がかかったり、出題形式が変わってしまうと分からなくなったりしてしまう児童がいる。</li> <li>10までの足し算、引き算の計算が遅い。</li> <li>文章問題は、問題文の意味を理解できず、立式を間違えることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習のプリントなどで様々な形式の出題の仕方に慣れさせる。</li> <li>毎日の宿題や隙間の時間に計算カードに取り組ませ、繰り返し練習させる。</li> <li>計算チャレンジ（計算クエスト）を実施し、計算の基礎基本の習得を目指す。</li> <li>具体物や絵、ICT機器を使って問題文の意味を確認しながら立式させる。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的だが、活動をカードなどに表現する力に個人差がある。</li> <li>気付きの内容や表現に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探検ボードを活用し目の前で観察できるようにさせたり、観察するものを写真に撮り注目しやすくさせたりする。</li> <li>観察の視点としてキーワードを提示し、その中から選んで文に表せるようにする。</li> <li>全体で話し合った意見を参考にさせたり、ICT機器を使用して友達の気付きを紹介する時間を取ったりする。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>元気に歌うことはできているが、曲想に合わせて歌うことには課題がある。</li> <li>器楽においては、楽器の音色に興味をもち、意欲的に取り組むが、音色に気を付けて演奏する技能を更に伸ばしていきたい。また、器楽を大切に扱うことができている。</li> <li>鍵盤ハーモニカの演奏に興味をもち、意欲的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを発表したり友達の意見を聞いたりする場面から、情景を思い浮かべやすくし、曲想にふさわしい歌声で歌えるようにする。</li> <li>音符の長さや指使いを、繰り返し練習したり、個別指導をしたりする時間を確保する。</li> <li>教師や友達の演奏を聴いたり、奏法を試したりしながら、適切な奏法を身に付けることができるようにする。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の楽しさを感じ取って聴くことができるが、それを表現する能力に個人差があり、十分に言語化できない児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発言を肯定的に受け止め、一人一人の感じ方のよさを価値付け、自分の感じ方や考えに自信をもつことができるようにする。また、児童の発言を全体で共有し、児童の言葉を教師が補うことで、表現方法を学んだり、語彙を増やしたりすることができるようにする。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら作品づくりに取り組んでいる。</li> <li>・指先を思うように動かせない児童や道具の使い方に慣れていない児童、集中して取り組めない児童が一部見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が興味をもって、意欲的に最後まで取り組める題材を用意する。</li> <li>・指先を使う活動や、道具の使い方の学習を、繰り返し行い、基本的な道具を使う技能を育てる。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かすことは好きで積極的に取り組む。</li> <li>・活動のきまりを理解するのに時間がかかる。</li> <li>・運動は、能力や体力、経験等の個人差が大きい。</li> <li>・整列、準備運動等に時間がかかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあての設定を工夫し、自らの成長が分かるような声掛けを行い、更に意欲を高める。</li> <li>・視覚的に分かるように工夫をする。</li> <li>・様々な運動経験ができるよう、計画的に進める。学習プロセスを工夫し、課題を解決していくことで苦手意識を和らげる。</li> <li>・安全に配慮しながら、「整列」や「前へならえ」などの手順を伝え、規律を守って行動できるように指導する。</li> </ul>
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりや友達と仲良くする大切さを実感している児童が多い。</li> <li>・友達関係の中で、つい自分本位な行動や、気持ちをうまく表現できない児童が一部見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心を動かす資料や展開の工夫で自分の考えをもつことができるようにする。話し合うことで、友達の考えのよさに気づき、自己の振り返りに生かす。</li> </ul>

# よりよい授業をめざして ～授業改善推進プラン～

2 年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習漢字の定着が不十分な児童がいる。</li> <li>拗音や促音を用いたり、順序を考えたりして文を書くことが苦手な児童がいる。</li> <li>読書をすすんで行う児童が多いが、読むジャンルに偏りがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で漢字練習時間を確保するとともに、既習の漢字を使う必要性のある場面を設ける。毎日の家庭学習と確認テストの実施で定着させる。</li> <li>手本や構成表を基に、順序よく作文を書かせ、拗音や促音、かぎなどの使い方を習得させる。</li> <li>東京ベーシック・ドリルやタブレットドリルを活用し基礎学力の向上を図る。</li> <li>図書などの読み聞かせを通して、様々なジャンルに触れられるようにする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>量の感覚が身に付いておらず、「長さ」や「水のかさ」で量を捉えることが苦手な児童が多い。</li> <li>ものさしや時計など、道具の扱いや目盛りの読み取りに課題がある。</li> <li>計算力の定着に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>cm、m、L、mL、午前と午後、何分前、何分後などの言葉を意識して使わせるとともに、教師も日常的に「時間」と「時刻」を意識して使い分けたり、単位を使ったりする。</li> <li>日常的にものさしを使わせる。</li> <li>東京ベーシック・ドリルやタブレットドリル、計算クイズを活用し基礎学力の向上を図る。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>植物や昆虫の観察の際、成長や変化をどのように具体的にとらえればいいのか分からない児童がいる。</li> <li>活動や体験を通して得られた「気付き」に対する視点が少なく、「気付き」に対して個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回との比較やにおいて、色、形などの気づきなど、具体的な観察のポイントを示し、五感を使って観察させる。</li> <li>気づきの質を高めるために、気づきの視点を児童に提示し、表現の語彙を増やすよう促す。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>元気な声で歌い、歌唱を楽しんでいる児童は多いが、曲想について理解し、表現できている児童は少ない。</li> <li>器楽については、鍵盤ハーモニカなどの楽器の音色に興味をもち、演奏には意欲的に取り組むが、リズムを感じたり友達の演奏を聴いて自分の演奏を工夫したりすることに課題がある。</li> <li>楽曲を聴いて感じたことを言葉で表すことについては、個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想や歌詞の内容から、どのように歌いたいか考える場面を設け、思いをもつことができるようにする。</li> <li>鍵盤ハーモニカを用いて個人練習の時間を確保し、できる喜びを味わうことができるようにする。</li> <li>自分の音や友達の音を聴きながら、拍を意識して曲のリズムを楽しんだり演奏したりできるようにする。</li> <li>楽器の演奏のまねをしたり、リズムを打って確かめたりするなど聴くポイントを焦点化する。また、自分や友達の感じたことを共感、比較しながら、言葉で表現させる。</li> </ul>

<div>図画工作</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 材料や道具を工夫して用いることが難しい児童がいる。</li> <li>• 自分で作品の内容を想像することが難しい児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 活動前にテーマに沿ったイメージを広げる時間を取り入れる。参考作品を見せたり、児童同士の交流を行ったりし、イメージをもとに作品をつくることができるようにする。</li> <li>• 材料や道具の特性を理解させる。</li> </ul>
<div>体育</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 体を動かすことに対する意欲は高いが、多様な動きをする経験が少ない。</li> <li>• 課題解決に向けた活動に取り組み、技能を向上させることの個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• いろいろな動きが経験できるよう、多種多様な動きのある運動を取り入れる。</li> <li>• 学習の振り返りの時間を設け、課題解決の手法が分かるようにする。</li> </ul>
<div>特別の教科 道徳</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教材をもとに登場人物の心情を捉えられるが、「よりよい生き方」について自分の考えを持ち同じような場面に立ち会ったときに、行動し振り返ることに課題がある。</li> <li>• 自分の考えをもったり、表現したりすることができる児童がまだ少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の気持ちや考えを伝え合ったり、ワークシートを読み合ったりすることで、自分の考えを深めることができるようにする。</li> <li>• 役割演技で場面を再現するなど、自分の考えや行動について振り返ることができるようにする。</li> </ul>

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の習得に個人差がある。</li> <li>文章の叙述を根拠に心情や様子を読み取る力に差がある。</li> <li>語彙が少なく、自分の思いを様々な言葉で書き表す力が十分とは言えない。</li> <li>文章の組み立てを考え、内容の中心を分かりやすく書く力が十分とはいえない。</li> <li>事柄の中心を考えて話したり、聞いたりする力に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぞり書きや空書きで字形を丁寧に確認させ、ドリルのテストを用いて定期的に習熟の確認を行う。繰り返し練習させ、学期2回の漢字 50 問テストで成果を確認する。</li> <li>辞書を使用して語彙を増やしたり、文章の構成を理解させたりするような指導を行う。</li> <li>作文指導は、構成表を基に組み立てを考えさせ、下書き、推敲、清書、交流のように、計画的・段階的に指導する。特に読み合いを日常的に行えるような環境を整える。また、キーワードを用いた作文指導を行い、キーワードから内容を広げ、文章を構成する力を高める。</li> <li>東京ベーシックドリルやタブレットドリルを活用し基礎学力向上を図る。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学や自分で調べる学習への意欲は高いが、学んだことをまとめる段階での粘り強さや発展させる力に個人差がある。</li> <li>学習問題を基にして、自分で調べ学習を進めまとめていく、という社会科の学習方法がまだ身に付いていない。</li> <li>地図や資料を読み取る力に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動をすることで助け合い学び合う力を身に付けさせる。また、新聞、リーフレット、ポスターなど、様々なまとめ方を経験させる。学年末には、学習者用端末を使い、スライドでまとめる経験をさせる。</li> <li>問題解決型の学習プロセスを丁寧に指導し、学習問題作りや、学習計画作りを経験させ、主体的に学習する力を身に付けさせる。</li> <li>地図帳や学習者用端末のストリートビューやグーグルアース等を活用して地図に慣れさせる。</li> <li>写真やグラフ、文章等、様々な資料を読み取る際には、比べる、全体で見る、部分で見るなど、読み取る視点を与え、資料ごとにどの視点が使えるかを考えさせる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着が必要な児童が一部いる。</li> <li>文章問題の題意を理解し、立式することが苦手の児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算クエストの年間実施を通して、基礎的な計算力の礎を作る。</li> <li>習熟度別でクラス分けをして、個別最適化した授業を行いやすくする。</li> <li>問題を図にしたり、キーワードに線を引いたりするなど、文章問題の解き方を細分化してスモールステップで指導する。</li> </ul>

理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験や観察への意欲が高い。</li> <li>・知識や技能の習得が不十分な児童がいる。</li> <li>・思考力については、個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のねらいをはっきりさせ、観察や実験の目的を常に意識して行えるように指導する。</li> <li>・観察や実験を行う際には必ず予想を立て、観察や実験の見通しをもたせてから行うようにする。</li> <li>・学習者用端末を活用し、考えを共有できるようにする。</li> <li>・対話的な学びを多く取り入れ、思考することに慣れさせる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに着目し、曲想に合った歌い方で歌うことができる児童が増えてきている。</li> <li>・器楽のリコーダーの学習においては、概ね基本的な奏法を身に付けることができる。タンギングや息の使い方に課題のある児童もいる。</li> <li>・音楽づくりでは、設定した条件に基づいて旋律やリズムをつくる学習に意欲的に取り組むことができた。どのような思いや意図でつくったかを言葉で表現することは、十分でない児童もいる。</li> <li>・鑑賞では、概ね曲想と音楽の構造を結び付けて聴くことはできる。曲のよさを見だし、曲全体を味わって聴いたり、それを言葉で表したりすることについては課題がある児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が、曲想と音楽の構造との関わりを結び付けることができるよう、曲想を言葉で表現するための形容詞表を活用したり、関わりが視覚的に分かりやすい板書を工夫したりする。</li> <li>・児童が、自己の課題に気付き、解決に向けてどのように演奏するか試行錯誤できるよう、一人一人が自分の音を聴く場面や友達の音を聴く場面を設定する。</li> <li>・どのような音楽をつくるかについて、自分の考えをもつことができるよう、児童の表現のよさを価値付け全体で共有する、互いのワークシートを見合う、学習者用端末を活用するなど、友達の考えから学ぶことができるようにする。</li> <li>・ねらいに沿った記述ができるよう、キーワードや話型を示すなどワークシートを工夫する。また、体を動かす活動を取り入れ、曲想と音楽の構造との関わりを実感できるようにすることで、曲のよさを見いだすことにつなげていく。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・描いたり、作ったりすることへの関心、意欲が高く、授業を楽しみにしている。</li> <li>・指先を思うように動かせない児童や道具の使い方に慣れていない児童、集中して取り組めない児童が一部見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な作品見本や制作方法を見せてイメージをもたせ、創作意欲などを更に高めるようにする。</li> <li>・指先を使う活動や、道具の使い方の学習を、繰り返し行い、基本的な道具を使う技能を育てる。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かすことへの意欲に個人差がある。</li> <li>・めあてをもって学習をする意識付けが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に応じて技能を高めるポイントを示し、さらに意欲をもって取り組めるようにする。</li> <li>・互いに教え合ったり、協力し合ったりして取り組めるようにする。</li> <li>・学習者用端末を活用して、動きのイメージをもたせる。</li> <li>・めあてが立てやすいように学習カードを利用する。</li> <li>・学習者用端末や学習カード等を活用し、振り返ることができるように工夫する。</li> </ul>
特別の教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだ場面に共感して自分自身のこととして具体的に考える際、深まりに欠けることがある。</li> <li>・模範的な考えを出すことはできるが、自分自身の行動を振り返り、内省的に深く考える力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛藤し、迷う場面のある題材を活用し、自分だったらどうするか、なぜそうするのかを考え、考えたことを交流する活動を行う。また、ロールプレイ等を取り入れる。</li> <li>・模範的な考えに対し、本当にそうなのか、別の条件だったらどうなるのか、児童の心を揺さぶる発問をして内省的に自分を見つめるきっかけを作る。</li> </ul>

道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言する児童が固定化し、多様な意見が共有されにくいことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が自分の考えをもって共有しながら授業に参加できるよう、特に主発問では、書く時間を十分にとる。書き終わったら、友達と自分の考えとを比較し、交流できるよう、見合う時間を設ける。</li> </ul>
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を習っている児童は少なく、外国語に慣れていない児童が多いが、授業を楽しみにしている。</li> <li>・ALT の発音を聞くことで、正しい発音に耳が慣れるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数字や曜日、気持ちを表す言葉など、日常でも使うような簡単なものから取り扱うようにする。</li> <li>・学習した言葉を使った、誰もが楽しむことができるゲーム等を活用して、発話する機会を作る。</li> <li>・毎回、チャンツを取り入れ、話型を覚えさせる。</li> </ul>

# よりよい授業をめざして ～授業改善推進プラン～

4 年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の習得に個人差がある。</li> <li>文章の叙述を根拠に心情や様子を読み取る力に差がある。</li> <li>語彙が少なく、自分の思いを様々な言葉で書き表す力が不十分である。</li> <li>文章の組み立てを考え、内容の中心を分かりやすく書く力が十分とはいえない。</li> <li>事柄の中心を考えて話したり聞いたりする力に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぞり書きや空書きで字形を丁寧に確認させ、ドリルのテストを用いて定期的に習熟の確認を行う。繰り返し練習させ、学期2回の漢字テストで成果を確認する。</li> <li>辞書を日常的に使用し、語彙を増やす。</li> <li>作文指導では、構成表を基に組み立てを考えさせ、下書き、推敲、清書、交流などのように、計画的、段階的に指導する。特に読み合いを日常的に行う。</li> <li>話したり、聞いたりする前に注目すべき視点を確認し、要点を捉えて話したり聞いたりできるように指導する。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>見学や自分で調べる学習への意欲は高いが、学んだことをまとめる段階での粘り強さや発展させる力に個人差がある。</li> <li>学習する社会事象について関わりのあるものとないものの区別がつかず、適切に課題を設定する力が低い。</li> <li>地図や資料を読み取る力に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ活動をすることで助け合い学び合う力を身に付ける。また、単元の終末にノートまとめを行い、学習内容の大切なことや感じたことなどをまとめる力を養う。</li> <li>調べたい事柄をグループ分けしたり、取捨選択したりしながら、課題となりうる疑問を整理させ、適切な課題設定ができるように指導する。</li> <li>見学時には、実際に通った道や見学場所を地図と対応させて確かめ、書き込む活動を取り入れる。</li> <li>地図帳や学習者用端末のストリートビューやグーグルアース等を活用して地図に慣れさせる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着が必要な児童が一部いる。</li> <li>文章問題の題意を理解し、立式することができない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別でクラス分けをして、個別最適化した授業を行うことができるようにする。</li> <li>問題を図にしたり、キーワードに線を引いたりするなど、文章問題の解き方を細分化してスモールステップで指導する。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年全体として理科への関心、意欲が高く、すすんで観察・実験に取り組んでいる。</li> <li>既習の内容や生活経験を基に、自然の事物や現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習のねらいをはっきりさせ、観察や実験の目的を常に意識して行えるように指導する。</li> <li>観察や実験を行う際には必ず予想を立て、観察</li> </ul>

	<p>象から問題を見いだすことができている。それについて、根拠のある予想や仮説を発想し、実験計画を組み立てることが不十分なので、経験を積んでいく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観察や実験から得られた結果について、自分の考えを表現することに、個人差がある。</li> </ul>	<p>や実験の見通しをもたせてから行うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習者用端末を活用し、よい考えを共有できるようにする。</li> <li>対話的な学びを多く取り入れ、思考することに慣れさせる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付き、どのように歌うかについて思いや意図をもって歌うことができる児童が多い。特徴を捉えた歌い方を工夫することに課題がある児童もいる。</li> <li>鍵盤ハーモニカやリコーダーの運指や奏法は概ね定着してきている。タンギング、息の使い方に関し課題がある児童もいる。</li> <li>即興的に音を選んだり、音楽の仕組みを用いて音楽をつくったりすることができる。音楽の仕組みを生かしてつくることによる面白さについての気付きが弱い児童もいる。</li> <li>曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりに関心を持てる児童が多い。曲全体のよさを味わって聴くことについて、言葉で表現する力には個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かす活動や、音楽的根拠を問う補助的な発問をするなどして、曲の特徴への気付きを深め、知識や技能を得たり生かしたりすることができるようにする。</li> <li>児童が、音色や響きに意識して演奏できるように、教師や友達の演奏を見たり、聴いたりする活動を多く取り入れる。</li> <li>児童のつくった音楽を価値付けるとともに、よかった点や個人の気付きを、全体で共有できるようにする。</li> <li>学習を振り返りながら、個に応じてキーワードや話型を使って書くワークシートを作成する。また、書いた文章を友達と共有する時間を設定し、友達の考えから学んだり、自分の考えを広げたりすることができるようにする。</li> </ul>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>描いたり、作ったりすることへの関心・意欲は高く、落ち着いて活動する。授業を楽しみにしている。</li> <li>素材や画材の性質を活かした表現や、適切な道具の使い方、画面に合わせてバランスよく表現することが苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な作例や制作方法の鑑賞を通して、理解とイメージ、創作意欲などを高めるようにする。</li> <li>各自の考えを交流して課題意識を高め、材料の性質を活かしたバランスのよい表現、道具の特徴を理解した安全な作業を身に付けさせる。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かすことへの意欲に個人差がある。</li> <li>めあてをもって学習をする意識付けが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態に応じて技能を高めるポイントを示し、さらに意欲をもって取り組めるようにする。</li> <li>学習者用端末を活用して、動きのイメージをもたせる。</li> <li>めあてが立てやすいように学習カードを利用する。</li> <li>学習者用端末や学習カード等を活用し、振り返ることができるように工夫する。</li> </ul>

<p>特別の教科 道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだ場面に共感して自分自身のこととして具体的に考える深まりに欠ける。</li> <li>・模範的な考えを出すことができるが、自分自身の行動を振り返り、内省的に考える力はなかなか身に付かない。</li> <li>・発言する児童が固定化し、多様な意見が共有されにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・葛藤し、迷う場面のある題材を活用し、自分だったらどうするか、なぜそうするのかを考え、考えたことを交流する活動を行う。また、ロールプレイ等を取り入れる。</li> <li>・模範的な考えに対し、本当にそうなのか、別の条件だったらどうなるのか、児童の心を揺さぶる発問をして内省的に自分を見つめるきっかけを作る。</li> <li>・ミニシートに書いた自分の考えを一人ひとり黒板に貼ったり、友達の考えを聞いて、書き足したり移動させたりする活動を入れることで、全員が自分の考えをもって、共有しながら授業に参加できるようにする。</li> </ul>
<p>外国語活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を習っている児童は少なく、外国語に親しみをもっていない児童が多いが、授業を楽しみにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数字や曜日、気持ちを表す言葉など、日常でも使う簡単なものから取り扱うようにする。</li> <li>・英語の簡単な歌を聴いたり、ビンゴをしたりするなど、誰もが楽しむことのできる活動を中心にする。</li> </ul>

# よりよい授業をめざして ～授業改善推進プラン～

5年

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字ドリルを利用し、小テストを繰り返し行うことで定着に努めている。しかし、既習の漢字を使用するという意識が薄い。</li> <li>自分の考えを順序立てて表現することが十分でない。目的や意図に沿うことや、語を適切に使用することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の学習を体系化し、一人で進められるように指導する。小テストや復習をこまめに行い、定着を図る。</li> <li>文章の型を与え、書き方を学びながら書く時間を増やす。</li> <li>自分の考えや意見を考える時間を確保する。自分の考えを振り返る時間を増やす。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を正しく読み取ることが十分でない。また、読み取れた情報を結び付け、考えをもつことができる児童は限られている。</li> <li>単元のまとめの振り返りの時に、学んだ内容を取捨選択して文章にすることに課題がある。</li> <li>学習課題を自分のこととして捉え、学習者用端末を用いて意欲的に調べることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の読み方やそこから分かることをクラス全体で確認する時間を設ける。</li> <li>教科書だけでなく、地図帳や新聞など様々な資料に触れさせ、学習に生かすことができるようにする。</li> <li>まとめでは、学んだことをキーワードとして挙げて、書く文章を全体で見通しをもつ時間を設ける。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎、基本の学習や既習事項が定着している児童としていない児童の個人差が非常に大きい。</li> <li>課題解決の際、自分の考えをもって問題を解くことができる児童が限られている。そのため、パターン化されていない問題が出たときに対応できない児童がいる。</li> <li>問題を解くことができても、論理立てて説明する力が不十分である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度グループ分けのプレテストで、その単元に合った復習問題を出し、既習事項の定着度を調べ、個に応じた指導をしていく。</li> <li>課題解決できるように、個人、全体で考える時間を授業の中に設ける。</li> <li>計算クエストなど、既習事項を活用した問題を繰り返し練習し、定着できるようにしていく。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年全体として理科への関心、意欲が高く、すすんで実験や観察に取り組んでいる。</li> <li>問題に主体的に取り組み、予想・仮説や実験計画を論理的に組み立てることが不十分で経験を積んでいく必要がある。</li> <li>実験や観察の結果から気づきや発見を整理し、表現する力が伸びている児童と、自分の見方や考え方に自信がもてないまま言葉にできない児童とに分かれている傾向がある。</li> <li>個々の児童の特性を生かして活動を工夫すると学習効果が期待できると考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に課題を解決していく力を伸ばすよう、個別の実験や観察の場面を更に増やし、ノートのとまとめ方もより工夫できるよう指導、助言をしていく。</li> <li>個別やペア、グループの活動による試行錯誤のプロセスを大切にし、学びに向かう力を伸ばすよう工夫していく。</li> <li>理解の定着を図れるよう、丁寧に指導する。その際個々の児童の特性に配慮して声掛けをしていく。</li> </ul>

音 楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 歌唱では、元気に声を出して歌える児童が多い。一方で、曲想に合った自然な歌い方で歌ったり、自分の声を全体の声に調和させて歌ったりすることが十分でない児童もいる。</li> <li>• リコーダーについては、基礎的な奏法が身に付いてきた児童が多い。様々な楽器に興味をもって取り組むが、音色や響きに気を付けて楽器を演奏する技能については、課題がある児童もいる。</li> <li>• 音楽づくりでは、いろいろな音の響きやそれらの組合せによる音や響きのよさを理解してつくることのできる児童が多い。音楽の仕組みを使って構成することについて課題のある児童もいる。</li> <li>• 鑑賞では、曲想及びその変化と音楽の構造とを結び付けて聴くことができる児童が増えた。曲や表現のよさを見いだし、言葉で表現することについては個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 曲想と歌詞の内容などの音楽の構造との関わりへの理解を深め、曲想に合った表現への意欲を高める。また、呼吸や発音の仕方を工夫し、児童が曲の特徴に合った歌い方を探ることができるようにする。</li> <li>• 児童が、演奏の仕方によって楽器の音色や響きが変わることを実感し、それが実際に演奏で生かされることに気付くことができるよう、曲にふさわしい表現と奏法と音色の関わりについて丁寧に指導する。</li> <li>• 音楽を構成する際に音楽の仕組みを生かしてつなげたり、重ねたりすることのよさや面白さを、実際に試すことによって実感しながらできるようにする。</li> <li>• 学習を振り返り、音楽を形づくっている要素の働きが生み出す効果について考えることで、曲のよさを見いだすことができるようにする。また、学習者用端末等を使い、友達の文章を知ることを通して、自分の考えと同じ部分や違いに気付き、個人の考えを広げられるようにする。</li> </ul>
図 画 工 作	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 描いたり、作ったりすることへの関心、意欲は高く、集中して取り組む。</li> <li>• 素材や画材の性質を活かした表現や、適切な道具の使い方、画面に合わせてバランスよく表現することが苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 多様な作例や制作方法の鑑賞を通して、理解とイメージ、創作意欲などを高めるようにする。</li> <li>• 各自の考えを交流して課題意識を高め、材料の性質を活かしたバランスのよい表現、道具の特徴を理解した安全な作業を身に付けることができるようにする。</li> </ul>
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 家庭科の内容は、経験に個人差がある。</li> <li>• 調理実習や裁縫などに意欲的に取り組むことができている。</li> <li>• 学習した内容を実際の生活の中で生かしていない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各自の課題について考えさせ、その解決に向けて実践につなげられるようにする。</li> <li>• 安全面に配慮しながら、友達と役割を意識して取り組んだり、協力し合ったりし、各々の活動時間を十分にとる。</li> <li>• 学習した内容を生活の中で実践できるよう、声をかけていく。</li> </ul>
体 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ネット型や陸上運動の単元などに意欲的に取り組むことができているが、集団行動などの基本的な動きに時間を要する。</li> <li>• 学習の仕方や作戦を立てるなどの思考判断の面で指導が必要である。</li> <li>• 技能・思考面での個人差が大きい。そのため、運動能力の差を気にして、意欲的でない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 基本的な集団行動の仕方について継続的な指導を行う。</li> <li>• 課題解決的な学習を進めることにより、作戦を立て考える場面や運動のポイントを考えさせる場面を意図的に取り入れる。</li> <li>• 自分の成長を感じられるように体育ノートに毎時間、めあてや振り返りを書く時間を設ける。</li> <li>• 児童の実態に応じて、練習場所やルールを設定し、主体的に運動に取り組むことができるようにする。</li> </ul>

<p>特別の教科 道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 言葉遣いの乱れや、優しさ、思いやりある行動について、指導する必要がある。</li> <li>• 相手の立場になって物事を考えることに課題がある。</li> <li>• 学んだことと自分自身の行動を結び付けて考えることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 気持ちや考えを伝え合ったり、模範的な行動と自分自身の行動と照らし合わせたりして、今後に生かすことができるようにする。</li> <li>• 日常生活指導や、他の教科の学習の中にも道徳的要素は含まれているため、それを重視し、継続的に指導していく。</li> </ul>
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ゲームやクイズには意欲的に取り組むことができる。ALT の発音をよく聞き、練習することができる。</li> <li>• 積極的に発言する児童が限られており、教科書に書き込む活動が苦手な児童がいる。</li> <li>• 英語で会話しながらコミュニケーションを図る活動では、日本語で話し、英語での会話を避ける児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ALT を活用し、指導者が発音したり見本を見せたりして、更に楽しく活動に取り組むことができるようにする。</li> <li>• クラス全員が発言できるように工夫する。また、個別の声掛けを増やしやすい場づくりを行う。</li> <li>• どのような英語をどの場面で使うのかをしっかりとつかむことができるように、その都度コミュニケーション活動を意図的に展開していく。</li> </ul>

	実態・課題分析	授業改善の手だて
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いや考えを文章で書くことに対する苦手意識をもつ児童が目立つ。また、文章で伝えることができるという自信をもつことができていない児童が見られる。</li> <li>読み手を意識した文章を書くことや、要旨をまとめる能力の個人差が大きい。</li> <li>論点を絞り、目的を明確にすることで、話し合いに意欲的に取り組むことができる。</li> <li>文章の中で適切に漢字を使ったり、語句の意味を知らなかったりすることが多い。</li> <li>全国学力・学習状況調査では、図表やグラフなどを用いて自分の考えを書き表すことや文章や話の内容に応じて自分の考えをまとめることに課題があることが分かった。また、無解答率が既習漢字を書くなどの問題で高かった。基礎的な知識の定着や学習に取り組む際の粘り強さに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマを提示し、そのテーマを分かりやすく、端的な言葉で説明する練習を積み重ねることで、書くことへの抵抗を減らしていく。</li> <li>文章構成や大事なキーワードを中心に繰り返したり、要点を整理したり、練習を重ねたりすることで書く力を少しずつ向上させていく。</li> <li>課題を明確に提示し、解決に向けた方法を例題とともに提示することで、継続して意欲的に取り組むことができるようにする。</li> <li>これまでの既習漢字を忘れていることが多いため、復習も取り入れながら定着させていく。</li> <li>漢字の学習を体系化し、一人で進められるように指導する。小テストをこまめに行い、定着を図る。熟語調べも積極的に行う。</li> <li>「書く」ことへの抵抗感を減らせるように、キーワードをつなげてまとめる練習や友達の文章を見合う活動を多く取り入れる。</li> <li>単元末には学習感想など時間を多くとって書く活動を設け、書くことへの抵抗感を減らすとともに、自分の考えを表現する活動に慣れさせる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の活用の仕方を理解していない児童が一定数いる。</li> <li>知識が出来事や人物の羅列にとどまり、その時代の人々の願いや背景を推し量る力に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料集なども多用し、グラフや写真から読み取る学習の時間を増やす。また、各授業で、資料から情報を整理する時間を設ける。</li> <li>授業ごとの振り返りや、単元のまとめでは、学習したこと以外のまとめ以外にも、考えたことや、疑問に思ったことなどを文章で整理し、言葉としてではなく、歴史の流れとして捉えられるようにする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な学習の習熟度に個人差が大きい。</li> <li>授業中は理解していても、時間が経つと既習事項を忘れてしまう児童がいる。</li> <li>計算問題などではできるが、基礎的な計算を活用して解答を導く問題に苦手意識をもつ児童が一定数いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習問題とともに、公式を繰り返し使ったり、振り返ったりする時間を設ける。</li> <li>毎時間に、前時に行った学習の内容を復習する。</li> <li>単位忘れ、計算間違い等のケアレスミスがなくなるように、見直しやや直し等を徹底させていく。</li> <li>掛け算や引き算、足し算などの1、2分程度のドリルを毎時間の初めに行う。正確さとともにある程度のスピードで取り組むよう声掛けし、繰り返し練習させる。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査では、基礎的な計算はできるが、考察したり、比例や割合といった既習事項を用いて答えを導き出したり、考えたりする力を高めることが課題であることが分かった。また、グラフを複合的に捉えて考察したり、図形の定義を理解したりすることにも課題があることが分かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倍や割合の問題は、数直線を自分の力で書いたり、簡単な数値に直して立式の方法を考えたりさせながら、自分の力で正しく立式する力を身に付けるようにする。</li> <li>・問題提示などを工夫し、問題場面を想像しながら問題解決に取り組めるようにする。</li> <li>・問題解決の仕方を互いに発表し合う中で、問題に取り組む姿勢を学ばせる。</li> <li>・レディネステストで、児童の習熟度を診断し、実態に応じたグループ編成や授業展開を行う。</li> <li>・各領域の授業のはじめに前学年までの内容を振り返る時間を設定し、反復して計算の仕方や図形の定義をおさえられるようにする。</li> <li>・東京ベーシック・ドリルなどで、既習事項を繰り返し練習し、基礎基本の習得を図る。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科への興味や関心にばらつきがあり、単元の導入で主体的に取り組むことができる課題を設定する必要がある。</li> <li>・実験や観察に積極的に取り組む児童が多い。ただ、まとめ方や表現力では個人差があり、課題と正対していない予想や考察をしたり、理解した内容の定着にも不安が残ったりする児童が一部いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別やグループで実験や観察をする時間を十分に確保し、気づきや発見が思考を深める機会となるよう意見を交流させ、指導、助言を行う。</li> <li>・個別やペア、グループの活動による試行錯誤のプロセスを大切にし、学びに向かう力を伸ばすよう工夫していく。</li> <li>・学習ノートのまとめ方の工夫、理解の定着を丁寧に指導する。その際個々の児童の特性に配慮して声掛けをしていく。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱では、どのように歌うかについて思いや意図をもつことができる児童が多い。高学年になり、その思いを表現したり、声を合わせて歌ったりすることを躊躇する児童もいる。</li> <li>・器楽では、楽器の組合せと曲想のとの関わりを理解し、各声部の役割に合った楽器を選んで合奏することができた。全体の響きを聴いて音を合わせることにについては、課題がある児童もいる。</li> <li>・音楽づくりでは、声の音色や響きのよさを生かしてリズムアンサンブルをつくることができた。重ね方や終わり方などを工夫してまとまりのある音楽をつくることに課題がある児童もいる。</li> <li>・鑑賞では、曲想及びその変化と音楽の構造とを結び付けて聴くことができる児童が多い。曲や表現のよさを見だし、言葉で表現することについては個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸や声の響かせ方などを試し、曲想に合う歌い方を探る時間を十分に確保する。また、声の重なりのよさを感じ取ることができるよう、互いの声を聴き合い、他の声部との関わりを意識して歌うようにする。</li> <li>・自分たちの演奏を学習者用端末に記録し、客観的に聴くことで、思いや意図に合う演奏の実現に向け、必要感をもって学習に取り組むことができるようにする。</li> <li>・声の高さや強さ、リズムの組合せ、重ね方や終わり方などによる表現の面白さに気付くよつについてたくさんの発想を得るため、グループの演奏を聴き合う活動を多く設定するようにする。</li> <li>・学習を振り返り、曲の全体像を確認してからその曲のよさを記述するようにする。児童が書いた文章を紹介することで、書き方の参考にしたり、様々な感じ方や考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりするようにする。</li> </ul>

図 画 工 作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・描いたり、作ったりすることへの関心や意欲は高く、落ち着いて活動することができる。</li> <li>・素材や画材の性質を活かした表現や、適切な道具の使い方、画面に合わせてバランスよく表現することが苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な作例や制作方法の鑑賞を通して、理解とイメージ、創作意欲などを高めるようにする。</li> <li>・各自の考えを交流して課題意識を高め、材料の性質を活かしたバランスのよい表現、道具の特徴を理解した安全な作業を身に付けさせる。</li> </ul>
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した知識が実生活に活かすことに難しさがある。</li> <li>・日常生活の中で、学習内容を体験している児童と、そうでない児童の差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実生活で活かせるような授業を展開し、振り返りや各自の課題を考え、自身の生活に生かすことができるようにする。</li> <li>・実習や体験だけでなく、動画を生かした授業を展開することで、自身の生活に生かすことができるようにする。</li> </ul>
体 育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動が好きな児童が多いが、体を動かすことに抵抗がある児童もいる。</li> <li>・毎時間の課題を意識して、学習に取り組む児童が増えてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上運動やボール運動など様々な運動を行い、体を動かすことの楽しさを味わわせていく。</li> <li>・個々やチームの課題を解決するための場や時間を設定し、より高まるよう指導していく。</li> </ul>
特 別 の 教 科  道 徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身のこととして教材の中身を考えたり、それからの自身への生かし方を考えたりすることが苦手な児童がいる。</li> <li>・学習したことを生活に生かしきれていない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その場面ごとに児童自身の問題として考えるように働きかける。難しい場合は、教科書の中身に限定せず、一人一人が考えやすい身近な場面を提示する。</li> <li>・日常生活の具体的な場面をとらえ、適宜声掛けを行っていく。</li> </ul>
外 国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の授業に苦手意識をもっている児童が多かったが、意欲的に取り組む児童がだんだん増えてきた。</li> <li>・発音練習や発表では声をあまり出さない児童がいるので、個別に声掛けが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、指導者が率先して英語を発音したり、身体表現をしたりして、更に明るい雰囲気をつくる。</li> <li>・楽しく話すことに重点を置き、基礎的な知識を伸ばす活動を繰り返すことで、中学校につながるようにしていく。</li> </ul>